

第2回、第3回 安全安心なまちづくり ワークショップ結果

～人と人が助け合い、支え合うコミュニティづくり～

【ワークショップの目標】

地域で様々な立場で活動している人に集まっていただき、地域が抱えている防犯・防災などの不安に対する課題や地域活動の課題を認識します。そして、最終的には「私たちのまちは地域コミュニティが強かったから、災害が発生しても犠牲者はゼロであった」、「新潟市に住んでいて良かった」と誇れる安全安心なまちづくりを目標にします。

【ワークショップの概要】

- ワークショップでは、対象とする小学校区内に居住する住民や、小中学校教諭、地元企業などが議論に参加したほか、警察、消防、区の職員もオブザーバーとして参加しました。
- 前回のワークショップの結果から、安全・安心なまちづくりのためには、地域活動と防災活動の組み合わせが必要であるため、各テーブルにおいて、多世代・多種多様な人々が継続的に楽しく参加したいと思う活動、その活動に参加したいと思わせる工夫について議論し、グループごとに意見を発表しました。

【ワークショップの流れ】

- ① 開会挨拶/ワークショップの目的について説明
- ② 前回WSの結果報告、資料説明等
- ③ グループ作業
- ④ グループ発表
- ⑤ 全体のまとめ
- ⑥ 次回のスケジュールについて説明 / 閉会挨拶

【全3回のワークショップスケジュール】

【第1回】 平成20年12月2日、8日、9日
わがまちの「安全・安心」を点検しよう！



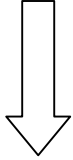
【第2回】 平成21年2月2日、3日、4日
地域コミュニティを活性化するための
方法について考えよう！
～人と人が助け合い、支え合う「〇〇小学校区」づくり～



【第3回】 平成21年2月23日、24日、25日
〇〇小学校区の「行動計画」を作ろう！

第2回ワークショップの進行状況

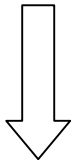
前回のWS結果報告



前回のワークショップで各地区の参加者から出た意見の概要が紹介され、自分が参加していない地区の意見も知ることができました。



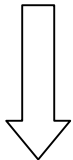
事例紹介(アンケート結果、先進事例)



新潟市で実施された安全・安心に関する市民アンケートの速報結果や全国の先進的な地域活動例が紹介され、これから行う議論のための参考としました。



作業の進め方について説明



どうしたら地域活動に参加し、防災・防犯の意識が高くなるかについて、7つの取組みの視点が提示されました。今回議論する点は、①多世代・多種多様な人々が継続的に楽しく参加したいと思う活動、②その活動に参加したいと思わせる工夫についてです。



グループ作業



A～Dグループに分かれて、わがまちでどのような地域活動が行われているか、活性化させるための工夫は何かについて自分の意見をカードに書いて模造紙にはり、他の人と似たようなテーマの意見のグルーピングを行いました。



グループ発表

各グループから発表者をひとり選んで、それぞれのグループで出された意見を発表しました。各グループの考えをワークショップ参加者全員で共有することができました。



みんなで考えた 地域活動の内容と活性化のための工夫

有明台小学校校区

平成 21 年 2 月 2 日（月）午後 7 時から
有明台小学校視聴覚教室にて
参加者：21 名

活動内容

- ・防災訓練や防災運動会を実施している
- ・閑屋六階節など文化継承活動を実施している
- ・町内クリーン作戦では、70～80 名がいっせいに清掃を行う
- ・他にお楽しみ会や餅つき会がある

工夫

- ・ゼロメートル地帯の人は必ず出してもらう
- ・学校や企業の屋上に上げてもらう
- ・女性は「バザー」という言葉が大好き
- ・資金集めが必要（廃油回収）
- ・委託事業の活用
- ・行政は立ち上げ時だけでなく、継続するための支援をすべき

Aグループ



Bグループ



活動内容

- ・父親が夜間参加する天体観測、きもだめし大会
- ・事業所の人でも地域を知ることができるようなマップの作成
- ・写真で自分の一番好きな場所（地区）を展示会で発表
- ・防災運動会

工夫

- ・ポイントを集めて企業のポイントに換えられる工夫
- ・子どもと両親を一緒に呼べるように両親が良いと思う企画をつくる
- ・若者達に参加したいと思われる行事を知るためにアンケートを実施する
- ・一年間の活動計画を目的別に一覧で作成し、案内を出す

活動内容

- ・町内会ごとの行事を作る
- ・母親を集める活動
- ・春と秋に実施される校区の祭
- ・防災運動会（小・中学校）
- ・PTAによるサマーキャンプ
- ・ふれあいスクール

工夫

- ・インターネットなどで情報提供することにより、欲しいときに欲しい情報が入手できるようにする
- ・各世代の人に魅力がある（食べる、作る、見る、体験する、選べる、参加できる）
- ・各世代の人が企画に参加する（できるだけそれらの意見が反映、分担、分ける etc）

Cグループ



Dグループ



活動内容

- ・海岸清掃
- ・病院で、無料の応急手当講習
- ・防災に関するクイズ大会（景品つき）
- ・家族で参加できる活動（ファミリークリーン作戦）
- ・アルビレックス応援やSL見学、料理教室など、それ自体楽しめる活動

工夫

- ・学校と地域が個別に実施している海岸清掃の合同実施
- ・子どもにはお菓子、大人には商品券など景品を用意する
- ・国勢調査の戸別訪問を活用して、各家庭にどのような人が住んでいるか把握したいが・・・